

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10588001				
授業名	世界動向と国際貢献 A	形態	講義	単位	2
担当教員	松尾 加奈、郷堀 ヨゼフ				
開講学期	2025年度 前学期	曜日・時限	水曜4限		
授業目的	本授業は「私」の世界が個の世界だけではなく、国境を超えて様々な関係性が紡がれている中で成立していることについて意識化する。学習者はグローバルな諸課題（戦争・テロ、貧困、環境問題、保健衛生など）についてその背景や原因を総合的に理解し、「共生」を土台に解決策を議論できる教養を習得する。				
授業内容	本授業では「保健衛生」「平和・紛争・戦争」「移民・難民」「環境・開発」の4つのテーマについて、新聞記事・ルポ・映像・ドキュメンタリー映画などの資料を用いながら、各国の取り組み、国境を超えた取り組みを生活者の目線で取り上げる。各授業において学習者自身の視点でそれぞれの問題・課題の背景や原因、解決策について考え、グループによるディスカッション、プレゼンテーションを通して議論し、理解を深めていく。				
到達目標	世界の諸問題について、その背景や要因など基礎的な知識を身につけ、独自性のある解決策を議論することができる。世界の諸課題と学習者自身並びに日本との関係について分析し、国境という枠組みを超えた「共生」について説明できる。				
ディプロマポリシーとの関連性	<大DP1-（5）> 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。				
授業形態	授業は4つのブロックで進行する。各ブロックでは、授業テーマ（世界各国が抱える課題）の説明、問題提起及び資料提示を講義形式で進める。参加者は講義を受けて、各テーマに沿って解決策・方法をアクティブ・ラーニングの手法を用い検討、学習者たちが考えた解決策については、世界各国で活動している実践者たちにコメント・評価を依頼する。 グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを実施する。ディスカッションはディベート形式を応用しながら、指定された2つの評価グループが相反する意見を提案、学習者全員はディスカッションに参加する。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。				
評価方法	本授業では学習者によるプレゼンテーションを実施するため、事前・事後学習時間にプレゼンテーション資料を準備する。評価はプレゼンテーション資料、授業内容に関するリアクションペーパー、各テーマの小レポート、期末レポートにより総合的に判断する。特に以下に留意し授業に参加してほしい。 ・グループワーク、プレゼンテーションにおいて、世界各国が抱える課題（テーマ）の要因分析が正確になされているか。資料収集、整理、提示は適切であるか。 ・解決策について斬新かつ実現可能なアイデアを提示しているか。 ・議論の進行を主体的に進め、相反する意見についての確に回答しているか。 ・リアクションペーパー、小レポート、期末レポートにおいて、出題意図を適切に理解し、「日本人としての視点」、「国境を越え俯瞰する視点」の複眼視点でテーマを分析、説明しているか。				
評価基準	各ブロックのプレゼンテーション（12点（各3点））、小レポート（28点（各7点））。 各回の事前・事後のレポート（含リアクションペーパー）30点、 期末（終講）レポート（30点）【合計100点】				
試験・レポート等のフィードバック	リアクションペーパーの質問への回答や小レポートのフィードバックは授業内で行う。学習者の意見・指摘・気づきを取り上げ、授業内で議論する。また授業内容・授業運営に関する相談時間を設け対応する。第15回授業では授業内後半でこれまでの学びを振り返りレポート（期末レポート）を作成、授業時間内に提出、これをもって試験とする。未受験の場合は個別に対応し、オンラインでの提出を考慮する。またフィードバックもオンライン（Googleクラスルームを利用）で対応する。				
注意事項及び履修条件	本授業では相手の意見を尊重し、誰もが議論に参加できる環境・雰囲気を保ちながら展開していく。そのため、グループワークやディベート、ディスカッションの際の相手や、他地域・外国・異文化などの「他者」を軽視しないこと、排他的・差別的な発言をしないこと、それぞれの文化の優劣を論じないことを授業の約束事とする。				
S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満					
第1回					
事前学習	シラバスを読み、授業内容や成績評価の方法などを確認、興味のあるテーマについて文献レビューする。新聞やニュースサイトで国際に関する記事を読み、自分の興味のある問題・課題について調べ				

	問や考察を500字程度にまとめる。
授業内容	担当：郷堀・松尾 授業のガイダンス（①授業目標と授業内容の確認、②成績評価の方法の確認、③受講にあたっての注意事項の伝達）、世界が抱える困難な問題とは何か？ 基本的には講義形式の授業を行うが、PC、スマートホン等の各種デバイス・ツールを活用したアクティブラーニングを実施する。学生から質問、意見を広く収集し教室内で共有する。
事後学習	授業内で提示された用語の中で、意味や内容がわからなかったものをテキストやインターネットで調べ自分の考えを500字程度にまとめる。
参考文献	

第2回	
事前学習	自分が興味関心を持つ国、行ったことや行きたいと思う国について、人口・民族・宗教・産業・生活・最近のニュースなどの情報を集め、興味を持つに至る理由を500字程度にまとめる。
授業内容	担当：松尾 「世界地図」について考える。国際関係を自分の視点・他者の視点から捉え直し、自己－他者の関係を考える。 基本的には講義形式の授業を行うが、PC、スマートホン等の各種デバイス・ツールを活用したアクティブラーニングを実施する。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。
事後学習	「国際」「国境」「国際ソーシャルワーク」の定義を調べ、500字程度にまとめる。
参考文献	

第3回	
事前学習	日本に住む移住者・難民はどのような状況におかれているか。法務省、総務省、日本国内で活動するNGOや相談機関などのホームページを読み現状に関する予備知識を得る。自分の考えや質問を300字程度にまとめる。
授業内容	担当：郷堀 グローバル・イシュー①「移民・難民」 国境を超えて日本の各地に生活している人びとが抱える課題について考える。移民・難民をテーマに、国境を超えて解決すべき課題、移民・難民に関する課題が発生する歴史的背景について学ぶ。 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求める。
事後学習	日本における移住者・難民の抱える福祉課題について調べ考察、500字程度にまとめる。
参考文献	

第4回	
事前学習	移住・難民・移民をテーマに国連や国際NGOの取り組みについて情報を収集し、考察や質問を500字程度にまとめる。
授業内容	担当：郷堀 プレゼンターによる発表、評価グループによるディベート、フロアのディスカッション。専門家からのフィードバック、各グループでのシェアリング実施。
事後学習	プレゼンテーションの感想を500字程度にまとめる。
参考文献	

第5回	
事前学習	小レポート作成に向けた準備。「移民・難民」をキーワードに文献をレビュー取り組むべき課題を一つ挙げ、国連機関等の活動例を調べ小レポートの要旨を300字程度にまとめる。
授業内容	担当：郷堀 学習者が調査した「移民・難民」の課題分析及び解決に向けた方策について、受講者全体で共有するとともに、教員とも議論し考察する。
事後学習	ブロックを振り返り、小レポート（A4用紙1枚：40字*30行）を作成する。
参考文献	

第6回	
事前学習	保健衛生をテーマにJICA、WHOなどの援助機関を1つ選び、ホームページや資料、統計や報告書を読み、自分の考えや質問事項を300字程度にまとめる。
授業内容	担当：松尾 グローバル・イシュー②「保健衛生」 保健衛生をテーマに国境を超えて解決すべき課題と、様々な国際機関の活動、それぞれの国の事情、歴史、特に感染症に取り組む国際機関、国際協調の現状を学ぶ。

	基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求める。
事後学習	「保健衛生」領域の課題を一つ選び、国連機関等の活動事例を調べたプレゼンテーション資料を作成（スライド4枚程度）
参考文献	

第7回	
事前学習	引き続き「保健衛生」領域の課題を一つ選び、国連機関等の活動事例を調べたプレゼンテーション資料を作成（スライド4枚程度）
授業内容	担当：松尾 知ることから始める：グローバル・サウスの国々を紹介し、「国際貢献」の先にある受け手の人々、コミュニティについて考える。フロアのディスカッションや専門家によるレクチャーやオンラインツールを利用したアクティブ・ラーニング実施等により知識を深める。
事後学習	プレゼンテーション資料作成を含む授業の振り返り、感想を500字程度にまとめる。
参考文献	

第8回	
事前学習	小レポート作成に向けた準備。「保健衛生」をキーワードに国連機関等の活動例を調べ、小レポートの要旨を300字程度にまとめる。
授業内容	担当：松尾 人命の価値は等しいのだろうか。保健衛生をトピックにしつつ、次のユニットにつながる「命」について考える。 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。
事後学習	ブロックを振り返り、小レポート（A4用紙1枚：40字*30行）を作成する。
参考文献	

第9回	
事前学習	戦争と平和をテーマに国連や国際NGOの活動をホームページや各種資料、報告書を読む。紛争・戦争地域の歴史的背景や平和構築に向けた課題について調べ、自分の考えや質問を300字程度にまとめる。
授業内容	担当：郷堀 グローバル・イシュー③「平和・紛争・戦争」 戦争・テロ・平和をテーマに、国境を超えて解決すべき課題、様々な国際機関の活動、それぞれの地域の事情や歴史的背景について学ぶ。 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。
事後学習	取り上げられた課題から平和構築に向けた国際協力の現状と課題について調べ、自分の考えを500字程度にまとめる。
参考文献	

第10回	
事前学習	紛争地域での様々な国際援助機関の活動についてインターネットや文献で情報収集し、プレゼンテーション資料を作成する（スライド4枚程度）。
授業内容	担当：郷堀 プレゼンターによる発表、評価グループによるディベート、フロアのディスカッション。専門家からのフィードバック、各グループでのシェアリング実施。
事後学習	授業の振り返りと感想を500字程度にまとめる。
参考文献	

第11回	
事前学習	小レポート作成に向けた準備。「紛争・戦争」をキーワードに国連機関等の活動例を調べ、小レポートの要旨を300字程度にまとめる。
授業内容	担当：郷堀 戦争・紛争解決は可能か：テーマのレビュー、質疑応答、ディスカッション。専門家からのフィードバック。ユニット全体を振り返る。 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。
事後学習	ブロックを振り返り、小レポート（A4用紙1枚：40字*30行）を作成する。
参考文献	

第12回	
事前学習	「持続可能な開発」について国選SDGsの取り組みに関する情報を収集する。「持続可能な開発」をテーマにJICA、WHOなどの援助機関を1つ選び、ホームページや資料、統計や報告書を読み、自分の考えや質問事項を300字程度にまとめる。
授業内容	担当：松尾 グローバル・イシュー④「環境と開発」 環境保護と開発をテーマに、国境を超えて解決すべき課題と途上国と先進国の事情や歴史的背景について学び、「持続可能な開発」とは何かを学ぶ。 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。
事後学習	開発領域、気候変動対策を進める様々な国際援助機関の活動についてインターネットや文献で情報収集し、プレゼンテーション資料を作成する（スライド4枚程度）。
参考文献	

第13回	
事前学習	引き続き開発領域、気候変動対策を進める様々な国際援助機関の活動についてインターネットや文献で情報収集し、プレゼンテーション資料を作成する（スライド4枚程度）。
授業内容	担当：松尾 グローバル・サウスの国々での社会開発の現実と課題について学ぶ。専門家からのインプットやオンラインツールを利用したアクティブ・ラーニングの実施。
事後学習	プレゼンテーション資料作成を含んだ授業の振り返りと感想を300字程度にまとめる。
参考文献	

第14回	
事前学習	小レポート作成に向けた準備。「環境と開発」をキーワードに国連機関等の活動例を調べ、小レポートの要旨を300字程度にまとめる。
授業内容	担当：松尾 開発援助のゴールはどこにあるのか：テーマのレビュー、質疑応答、専門家からのフィードバック。ユニットの振り返り。基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。
事後学習	ブロックを振り返り、小レポート（A4用紙1枚：40字*30行）を作成する。
参考文献	

第15回	
事前学習	14回の授業の中で配布された資料を読み、質問事項を500字程度にまとめる
授業内容	担当：郷堀・松尾 世界の動向と国際貢献の将来像：授業を振り返りグローバルイシューについて「共生」の視点で議論する。 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。
事後学習	グローバル化が現代社会に与えたインパクトを自分自身の専門領域に寄せて考える。「国境を越えて考えなければならない課題とは何か。どのような国際協力が考えられるか。共生の視点を加味して論じる。なお、期末（終講）レポートの詳細、締切日、提出方法は授業内配布資料で明示する。
参考文献	

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><大DP-1>【社会の構成員としての基本的知識・技能・能力】</p> <p><大DP1-（1）>日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。</p> <p><大DP1-（2）>情報リテラシーや数論的スキルを修得している。</p> <p><大DP1-（3）>課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。</p> <p><大DP1-（4）>自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。</p> <p><大DP1-（5）>人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。</p> <p><大DP-2>【専門教育分野における知識・技能・能力】</p> <p><大DP2-（1）>自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。</p> <p><大DP2-（2）>修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。</p>
-----------	--